

# 成願寺

季報

126

令和2年12月10日  
(2020年)

目次	
「羅漢さまの功德①」大谷哲夫……………	1
秋彼岸会とお授戒の報告……………	5
J R 東日本「駅からハイキング」開催の報告……………	6
中野区から幼稚園入園式の報告……………	6
中野区から幼稚園「七夕夕涼み会」の報告……………	7
山内短信……………	8

発行 多宝山成願寺  
〒164-0012 東京都  
中野区本町2-26-6  
電話 03-3372-2711  
制作 地人館

連載

## 羅漢さまの功德①

新宿区長泰寺 住職・元駒澤大学 総長 大谷哲夫

羅漢とは



成願寺境内の十六羅漢

昔話や童歌にも登場する慈愛あふれる羅漢。画幅に描かれた怪異とも言える奇相鬼面で人を圧倒する羅漢。俗塵を離れた仙境にたたずむ端正な高僧風な羅漢。叢林(仏道修行道場)の山門の上から入門僧を迎える羅漢。十六羅漢とも十八羅漢とも言われる羅漢たち。さ

### 納めの観音(年末の会)のお知らせ

十二月十八日(金)午後二時より、観音堂に於

いて納めの観音様の縁日法要を執り行います。

法要後は書院にてお話と軽食懇親会を予定。

リモート説教 長野県長福寺 住職 竹村信彦師

演題 「前向きに生きる『遺言』のちから」

会費 二五〇〇円

\*参加人数把握のため(軽食の注文数と過密を避けるため)、予約をお願いします。

\*竹村師からは、長野のご自坊からリモート説教をいただきます。みなさまは書院にてお聴きください。

### 除夜の鐘・新年祈禱会(百七組予約受付)・一撞き千円

大晦日 夜十一時半来会者一同で読経―撞き出し

令和三年元旦 零時半新年祈禱

\*除夜の鐘の前にお焚き上げをします。本年中の護符(御札)をお持ちください。

らには五百とも言われる羅漢群像。成願寺の境内に目を向けると、様々な表情の十六羅漢の石像が点在して参拝者を見守っている。

時には永遠なる仏法の厳しい求道者として、あるいは仏法の護持者として、人々の救済者として、何れも尊崇の対象として存在するというその羅漢とは一体何者なのであろうか。

そもそも「羅漢」と言う言葉は、インド古代語の梵語アルハンの中国音写で漢語の「阿羅漢」を略した言葉で、普通には、生死を離れ一切の煩惱を断つた仏道修行者の最高段階にある人のことを指すと理解されている。が、このアルハンは、釈尊当時のインドでは宗教的な理想を実現した聖者のことをさし、たとえばジャイナ教やバラモン教の聖者をもそのように称したのである。

釈尊は成道後、波羅奈国（インドの都市ベナレス）の鹿野苑において初めての説法（初転法輪）をされるが、その時の状況を記した『律蔵』は、説法した釈尊とそれを聞いた五人の修行僧を「六人の尊敬される人々がこの世にあらわれた」と伝えていると言われる。

釈尊を筆頭とした六人の阿羅漢の誕生である。が、

この時代は釈尊を仏陀・如来とし、弟子の阿羅漢は比丘・苾芻と表現している。

その当時の釈尊の弟子たちを声聞・縁覚と呼ぶことがあがるが、「声聞」というのは、出家して釈尊の直弟子となつて説法を聞き仏道修行する人たちのことで、その修行の上に、十二因縁（人の一生を原因と結果で表した真理）によつてその境地を高め諸法の因縁をさとする仏弟子を「縁覚」と言う。この声聞・縁覚と言われる仏弟子たちが最終目的としたのが阿羅漢である。

つまり、仏教では、釈尊の教法を十分に理解し実現し、その結果として一切の煩惱を超越して、未来には迷いの世界に生まれることのない悟りの境涯に達した仏弟子の聖者を指すことになつたのである。

しかし、彼等がその最終段階、つまり阿羅漢としてのさとりに至るまでには大変な時間と困難がともなうとされた。それを段階的に示したのが、

予流―将来、羅漢になれる見込みのある段階  
不還―現世に生まれ、戻らずに涅槃に入れる段階  
一來―死語この世に一回戻る程度で解脱する



「積迦三尊十六羅漢像」  
 (鎌倉時代/東京国立博物館蔵)  
 出典：国立博物館所蔵品統合検索システム (<https://colbase.nich.go.jp/>)

積迦が説法したという霊鷲山を背景に、中央に積迦如来、向かって左に普賢菩薩、右に文殊菩薩の積迦三尊。さらに、左右に8人ずつ、16人の羅漢が描かれている。下方には左に聖徳太子、右に弘法大師の姿が見える。

の三段階で、阿羅漢果（最終的なさとり）を得るまでにはその三段階を経る必要があるとするのである。このような段階を経て阿羅漢果に到達した阿羅漢は、

殺賊——全ての煩惱という賊を断つた人  
 応具——世間から供養を受けるに価する人  
 福田——供養を受け信者に福を授ける人  
 不生——生死を超えた境界に至っている人  
 無学——これ以上学ぶべき法がない人

などと意識されるのである。

こうした羅漢の位置が判然とするのは、釈尊が亡

くなった後、第一回目の仏典結集（釈尊の教えを互いに確認しまとめる会議）に集まった五百人の弟子たちを五百羅漢と称することがあるが、さらに釈尊が亡くなった後百年頃に戒律上に疑義が生じ、毘舍離（古代インドの都市）において七百人の比丘を集めて第二回目の結集が行われた時以後のことである。

つまり、第二回目その結集以後、仏教教団は釈尊の伝統を守ろうとする保守的な上座部と進歩的で自由主義的な大衆部（後の大乘仏教）の二派に分かれ、その両派がさらに分裂して部派仏教時代に入ることになる。

この時代には、釈尊（仏陀）と阿羅漢とを歴然と

区別するようになる。つまり、釈尊は全てを知る（二切智）ものとしたのに対して、阿羅漢については、煩惱は滅しているが未だその域には達していないものとした。

そこで、仏道修行者たちは、釈尊の残した法を求めてひたすらに修行し阿羅漢となるのを究極の目的とすることになったのである。しかしながら、そうした阿羅漢の最終的な解脱の境地というのは、結局はあくまでもその羅漢個人のことで、多くの人々の救済には関係のないことになる。

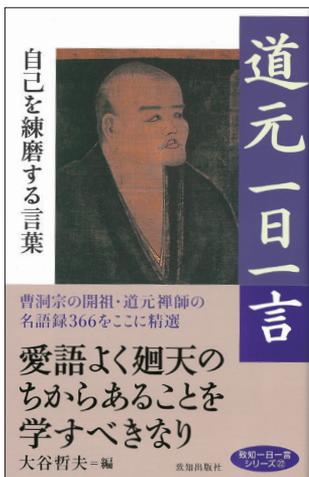
ところが、大乘仏教では、自分自身が悟りを開き、涅槃し菩薩となり仏となると同時に一切の人々を救済することを目的とした。

そのため、大乘側は、自分の利益のためのみに阿羅漢を目指す修行者たちを「小乗」と呼んで非難した。ここで、いわゆる上座部仏教（小乗仏教）の阿羅漢と大乘仏教の阿羅漢は大きく変異し展開していくことになったのである。しかしながら、上座部仏教的な、つまり小乗仏教における羅漢の概念も時代とともに大乘仏教的な精神が加味されて、次第に多くの人々の救済をもするという具合に展開していくことになるのである。

つまり、羅漢というのは、一口に羅漢といっても、初期仏教、上座部仏教（小乗仏教）、部派仏教時代それぞれ大乘仏教では、時代の流れとともにそのあり方やその理解の仕方に大きな違いがあるのである。が、いづれにしても羅漢は、釈尊の高弟たちへの崇拜がその基になり、時代の流れの中で種々な様相を見せながらも、困難な修行を達成し、仏法を護持し、衆生を済度するという形で中国に仏教が伝来するとともにその存在は知られることになる。

（以下次号）

\*この稿は、平成十九年に十六羅漢顕彰会より刊行された「十六羅漢の様相」（大谷哲夫編著）を成願寺季報向けに加筆・再編したものです。



大谷哲夫編  
『道元一日一言』  
致知出版社刊  
本体 1,200円（+税）



授戒の様子

からなる戒を守り、実践することで仏心に目覚めるのです。



秋彼岸法要の様子

拝をお迎えました。また、二十二日（火）のお中日には、檀信徒の授戒会をお勤めしました。授戒とは、お釈迦様から脈々と伝わる戒をお授けすることにより、正式に仏弟子となっていたいただくことです。お釈迦様との約束とも言える次の十六条

### 秋彼岸会とお授戒の報告

九月十九日（土）、

彼岸の入りの日に秋彼岸法要が厳修されました。コロナ対応で、僧侶のみでのお勤めとなりましたが、終日に行なり多くの檀信徒の参

三歸戒… 歸依仏・歸依法・歸依僧  
 （仏教徒としての根本となる戒で、仏法僧の三宝を深く敬うこと）

#### 三聚淨戒

- ・ 摂律儀戒（悪いことはしない）
- ・ 摂善法戒（善いことをする）
- ・ 摂衆生戒（全ての衆生を救う）

#### 十重禁戒

- ・ 不殺生戒（殺さない）
- ・ 不偷盜戒（盗まない）
- ・ 不貪婬戒（犯さない）
- ・ 不妄語戒（うそ偽りを言わない）
- ・ 不酤酒戒（酒に溺れない）
- ・ 不説過戒（他人の過ちを言わない）
- ・ 不自讚毀他戒（自らを褒め、他人を悪く言わない）
- ・ 不慳法財戒（教えや財産を与えることを惜しまない）
- ・ 不瞋恚戒（怒らない）
- ・ 不謗三宝戒（仏法僧の三宝をそしらない）

住職が生前戒名をお授けし、お釈迦様の弟子となつた証とも言える法脈（血脈）をお渡しします。最後に輪袈裟が授与されると、新たな仏弟子となり、仏

教徒としての自覚を持って歩まれることを祈念して授戒の儀式は円成となりました。

授戒を希望の方は寺務所へお申し込みください。

.....  
J R 東日本「駅からハイキング」開催の報告



去る十月三十日(金)から十一

日八日(日)まで、J R 東日本が企画・運営する「駅からハイキング&ウォーキングイベント」が当山をコースのポイントの一つとして開催されました。「駅からハイキング」は四季折々の絶景ポイントを味わいながら気軽に参加できる日帰りイベントだそうです。春夏秋冬によってJ R 東日本管内の北から南までさまざまなコースが企画されて人気です。

今回は「秋の神田川と神社・仏閣を巡り中野の自然を感じるウォーク」―都会の中心を流れる神田川のほとりを歩き、歴史ある神社・仏閣を巡り、中野の自然と歴史を感じてください―というテーマ。

「東中野駅西口」の受付でコースマップと記念品を受け取りスタート。旧中野村総鎮守社である「中野氷

川神社」。南こうせつとかぐや姫のヒット曲「神田川の歌碑(中野区認定観光資源)」。遊歩道として親しまれる「神田川四季の道」。そして「成願寺」へ。太田道灌が江戸城工築の際、大宮氷川神社より勧請し創建した「本郷氷川神社」。真言宗豊山派の名刹「宝仙寺」。旧桃園川上を利用した「桃園川緑道」。中野区が東京開都百年記念事業の一環として整備した「紅葉山公園」。ゴールは「中野駅南口」で、所要時間約三時間、歩行距離約七kmでした。約二千人が参加したそうで、当山境内にも多数の参加者が訪れました。イベント参加の記念品として開基・中野長者鈴木九郎の物語が印刷された茶<sup>ちや</sup>と当山檀信徒が登売する「リ・ソビーム(健康シール)」の試供品を配布しました。

.....



.....  
中野たから幼稚園入園式の報告

去る六月六日(土)、コロナの影響で行うことができなかった入園式が、二ヶ月遅れで執り行われました。密をさけるために第一部さくら組、第二部つぼみ組と二回行いました。ようやく迎えた入園式に笑顔の子どもたちでした。

## 中野たから幼稚園「七夕夕涼み会」の報告

夏の恒例行事「七夕夕涼み会」が、七月三日（金）成願寺境内において行われました。大きな笹飾りに



お焼香をする子どもたち

は、子どもたちが願ひ事を書いた短冊と、先生と一緒に工夫して作ったお星様などの飾りが揺れています。当日は夕方から降り出すという天気予報を考慮して、予定していたより二時間早めて始めました。色とりどり、かわいい浴衣



笹飾りの前で記念撮影



境内いっぱい広がって



親子での踊り



笹飾りを受け取ります

のついた笹飾りをひと枝ずつ受け取って、嬉しそうなお子どもたちでした。

姿の女の子たち。甚平姿が涼しげな男の子たち。浴衣姿のご父母もいらしてお寺が華やかにまりました。最初、笹飾りの前でクラスごとに記念撮影。続いて主事先生（副住職）とともに本堂のののさま（お釈迦さま）に手を合わせるのと「三歸礼文」というお経をお唱えしておつとめをしました。続いて園長先生（住職）より「今日のはののさま、みんなのご先祖さま、天の川では彦星と織姫がみんなの踊りをきくと見守ってくださいます。元気に踊りましょう」とお話がありました。内円には年中、外円には年長が陣取ると、「一休さん」、「にんにん忍たま音頭」を楽しく踊りました。最後にご父母と一緒に「Bビーダマン音頭」を楽しみました。帰りには、お家に飾るために自分の短冊

## 山内短信

### ◎大般若祈禱会のお知らせ

令和三年一月十日(日)、午後一時より大般若祈禱会を開き、家内安全・身体健全・商売繁盛等を祈念します。どなたでも(檀家以外の方も)祈禱を受け付けます。願文を添えてお申し込みください。

### ◎年始めの会(初観音)のお知らせ

令和三年一月十八日(月)午後二時より、新年初の観音様の縁日大祭(祈禱会)を行います。お札をお授けしますので願文を添えてお申し込みください。ご祈禱後はお汁粉で懇親会です。会費一五〇〇円

### ◎諸活動の再開について

コロナ対応のために休講してりました左記諸活動は再開しております。詳しくは当山ホームページでご確認ください。問い合わせは( )内までお願い致します。

- ・金曜定例坐禅会 (成願寺事務所 0333722711)
- ・井上東京坐禅会 二〇名限定の予約制  
(豊島世話役 09072884191)  
とよしま
- ・安達原玄写仏の会 (成願寺岡島 0333722711)

- ・仏像彫刻親仏会(榎本講師 07055966001)
- ・沖繩空手道場(伊藤師範 0333754658)

### ◎寄宿生募集

当寺近辺の宿舎に寄宿し、学校等に通う勤勉な者を受け付けます。

朝の行事(作務<sup>おんぎょう</sup>・朝食)に参加(七時以後自由)  
僧俗・性別・国籍不問・二十二歳未満  
寺務所にお問い合わせ下さい。

### ◎墓地の管理について

当山墓地に何年もの長い期間お参りがなく、墓地管理に対する付け届けが無い、連絡の付かないお墓があります。該当の墓石に立て札を設置しました。心当たりの方はご連絡をお願いします。

\*ご来山の際は体調を考慮の上、マスク着用、手洗い、咳エチケットなどにご協力いただき、感染症対策にお努めくださいますようお願い申し上げます。

\*ご案内の諸行事は状況によっては中止になる場合がございます。当山ホームページにてご確認ください。寺務所までお問い合わせください。